

第4章 関西経済連合会の「親関西人材」育成への取組み

濱田 浩一

1. 「親関西人材」の育成への取組みの背景

関西経済連合会（以下、関経連）では、「親関西人材」の育成およびそのネットワークの拡大に向けた取組みを進めている。関西の経済・産業・文化面での強みや特徴を理解し、アジアと関西の人的交流（留学・観光等）や経済交流（貿易・投資等）のパイプ役を担っている人材、または今後、担うことが期待される人材を、関経連では「親関西人材」と名付けている。アジアの「ゲートウェイ」を目指す関西では、「親関西人材」の育成、また人材ネットワーク拡大を通じて、アジアでの課題解決に貢献しつつ、関西企業のアジアビジネスの拡大を支援していくことが一層重要になっている。

2016年2月に開催された第54回関西財界セミナー（主催：一般社団法人 関西経済同友会、公益社団法人 関西経済連合会）の第3分科会「アジアで活躍する『親関西』人材の拡大に向けて」において、「親関西人材」の育成・ネットワーク化に向けて、関係機関が連携して取り組んでいくことが確認された。これを踏まえて、関経連では「アジアの諸課題解決への貢献、親関西人材の拡大を通じたビジネス機会の創出」を2016年度の重点事業の一つに掲げた。その後、2016年7月には関経連の国際委員会において、「親関西人材」の拡大に向けた取組みなどを進めていくためのアクションプランを取りまとめた。本アクションプランでは、2020年度のめざすべきゴールとして、①産学官連携のもと、「親関西人材」のネットワークが拡大すること、②関西の技術や規格が各国に普及し、裾野産業の発展、環境問題の解決・低炭素社会の構築、都市防災力の向上等に貢献すること、③双方向で関西とアジアの人的・経済的交流が拡大することの3点を設定した。そして、「関西の技術・ノウハウ普及を担う人材の拡大」と「人材のネットワーク化」の2つの観点から様々な取組みを行っていくこととした。

2. 関西の技術・ノウハウ普及を担う人材の拡大——関経連アセアン経営研修の充実・強化

「関経連アセアン経営研修」は、関経連が「親関西人材」の育成にあたり、重視して取り組んでいる活動の一つである。1980年1月に関経連がアセアンに経済ミッションを派遣した際、懇談先の一つであったインドネシア商工会議所から「若手経営者に日本の企業経営について学ぶ機会をつくってほしい」との要請を受けてスタートした人材育成プログラムである。2015年度までの累計参加者は13カ国387名にのぼり、研修修了生は各国の政財界で活躍している。本研修は、日本的経営の長所や特質を学ぶことから始まったが、その内容はアセアン各国の急速な経済成長やアジア通貨危機といった時代背景に応じて変化してきた。図4-1は、関経連アセアン経営研修の変遷を整理した図である。今後も、様々な環境変化に伴う、各国・各団体のニーズを踏まえた研修へと進化させることが求められている。

	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代
研修テーマ	日本的経営の特徴 ・日本経済の発展要因 ・経営理念、人事管理(年功序列、終身雇用)、TQC ・経営戦略 ・雇用慣行、労使関係	日本の企業経営の特徴 ・日本経済の歴史 ・日本企業の経歴 ・日本企業のアセアンとのつながり	競争力強化への企業努力 [前半] ・商品開発 ・品質管理 ・マーケティング ・人材育成など [後半] ・経営理念 ・経営戦略 ・環境への取り組み ・生産管理	企業を取り巻く環境の変化と企業経営の課題 ・各国企業間のパートナーシップ ・環境問題への対応、環境ビジネス ・アセアン経済統合、グローバル化への対応
訪問先	・大手企業	・大手企業 (アセアンとの接点を重視して選定)	・主として中小企業 ・グローバルに活躍、競争力のある企業 ・オンリーワン技術など、差別化戦略を打ち出している企業	・テーマに応じて大企業、中小企業より選定
討議	・関西の経済人との懇談	・国際委員会との討議(日本企業のアセアンへの投資等)	・訪問先との討議 ・研修員間の討議 当初:講師・研修生との質疑・意見交換 後期:参加国のケースを参考にして相互にアドバイスし合う場面が増加	・ラウンドテーブル ・企業経営幹部との討議 ・研修生間での討議
研修生の関心事	日本経済の発展要因である経営手法・習字	経済成長と産業活動に関する日本企業の経営課題と経験	アジア通貨危機に直面する中で、日本が行った対外政策に対する理解の機会	人々の生活や社会に貢献に向けてのさらなる挑戦
周年卒業	10周年セミナー(1989年、シンガポール)	20周年セミナー(2000年、主会場:クアラルンプール 遠隔:バンコク・大阪)	30周年セミナー(2008年、ジャカルタ)	

図 4-1 関経連アセアン経営研修の変遷

そこで、関経連では、2016年11月、次年度以降のアセアン経営研修の充実・強化を検討するため、本研修に協力いただいている各国の機関の幹部を関西に初めて招聘し、「関西アジアフォーラム」を開催した。8カ国(カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、タイ、ベトナム)から11名が参加し、裾野産業、イノベーション、農業振興といった、参加者が特に関心を寄せる分野を取り上げ、関係企業・団体等への訪問や意見交換を通じて、研修の充実・強化に向けた検討を行った。各国の参加者からは、「アセアン各国は、国によって発展の段階が異なることから、一部のテーマについては複数のグループに分けて実施してはどうか」「日本企業のOJTを学べるプログラムを導入してほしい」「自然災害の増加は各国共通の課題であり、防災についての学びが参考になった」といった意見が寄せられた。フォーラムの最終日には、「関西アジアフォーラム宣言」(表4-1)を取りまとめた。関経連では、この宣言を踏まえ、今後、新しいテーマの設定や、新たなプログラムの導入など、次年度以降の本研修の具体的な内容を検討していく。

表 4-1 関西アジアフォーラム宣言

1. 各団体間の一層の連携強化

アセアン各国は持続的な成長に向け、裾野産業の振興、環境問題や災害への対応、農業振興、イノベーション、人的資本強化などが喫緊の課題である。これらの課題に対応するとともに、各国間のビジネス交流を拡大するため、各団体間の連携を一層強化する。

2. 関経連アセアン経営研修の充実・強化

来年度以降の研修については、各国・各団体の課題・ニーズに応じたテーマ設定、関係機関・企業等との意見交換や討議を行うなどのビジネス機会創出拡大に資するプログラム、SNS活用や同窓会開催など、研修後の関係づくりに留意し、その充実・強化を図る。

3. 関西の技術・ノウハウ普及を担う人材の拡大——防災対策・環境研修および人材育成支援の実施

関経連では、アセアン各国での人材育成に向けた取組みとして、2つの事業を今年度から新たに展開する。1つ目は、各国の行政官を対象とする防災対策や環境分野に関する研修である。インダストリアルツアーや企業・自治体とのラウンドテーブルへの参加を通じて、相互理解の深化と、関西の技術・ノウハウの普及をはかることを目的としている。

2つ目は、アセアン各国の製造現場、特に裾野産業の発展を支える人材の育成を目的とした研修である。製造現場等での実習や講義、現地の日系企業の訪問等を通じて、日本のものづくり技術に精通した人材を育成し、アセアン各国の裾野産業の発展に寄与するとともに、関西企業のビジネスパートナー拡大をめざすものである。

これら2つの研修事業は、2016年度に、インドネシアやベトナムを訪問した際に、懇談した両国政府の要人に対して、関経連の森詳介会長などから、ものづくり・環境・防災など、関西の経験・技術の蓄積のある分野での産業協力を提案したことのフォローアップとして構築したものである。まずは、2017年2月にインドネシアを対象として、「インドネシア溶接・ロボット管理者研修」および「インドネシア防災力向上に向けた要人招聘プログラム」を実施した（表4-2、表4-3）。溶接・ロボット管理者研修については、2016年11月にプレ研修を行い、研修内容に関するニーズ等を把握した。

2017年度はベトナムを対象に、環境分野における行政官招聘研修と、ものづくり技術に精通した人材の育成のための現地研修を実施する。

表4-2 インドネシア溶接・ロボット管理者研修の概要

<ul style="list-style-type: none">・目的：ものづくり人材の育成を通じて、すそ野産業の発展に貢献 生産量拡大と品質安定に資するロボットを活用した溶接の技術者育成をはかる 関西企業の現地での優秀なワーカーの確保に貢献・主催・共催：松下ゴーベル財団、インドネシア溶接協会、関経連、インドネシア金 型工業会・時期：2017年2月・場所：インドネシア・ジャカルタ・参加者：インドネシア現地企業および進出日系企業のワーカー10社・団体15名・内容：溶接・ロボット管理者育成のためのプログラム (2016年度は初級プログラムとして溶接の基礎、次年度以降、中級・上級 プログラムを展開予定) <p>※当会は、本事業のほか、岩谷産業が2013年よりインドネシアで実施しているウェル ディングセミナーを後援している(本年度は2016年11月に溶接コンテスト表彰式・ セミナーを開催)。</p>
--

表4-3 インドネシア防災力向上に向けた要人招聘プログラムの概要

<ul style="list-style-type: none">・目的：インドネシアの防災力向上に貢献 インドネシア行政官の防災に関する理解促進 関西企業の技術のPR、導入促進・主催：関経連、JICA 関西・時期：2017年2月・場所：関西・招聘者：国家防災庁、技術評価応用庁、気象気候地球物理庁の幹部 計7名・内容：企業・自治体の技術紹介・関連施設視察、防災関連企業との意見交換、セ ミナー開催など

4. 人材のネットワーク化——親関西人材ネットワーク連絡会

関経連では、「親関西人材」の育成等について関西が一体感をもって取り組むための仕
組みとして、2016年6月に「親関西人材ネットワーク連絡会」を設置した。本連絡会
のメンバーは、関経連の他、アジア太平洋研究所(APIR)、海外産業人材育成協会(HIDA)
関西研修センター、近畿経済産業局、国際協力機構(JICA)関西国際センター、太平洋
人材交流センター(PREX)、日本貿易振興機構(JETRO)大阪本部である。

本連絡会の主な取組みは、各機関の活動状況・課題の共有と連携方策の検討・実施など
である。2016年は6月と11月の2回会合を開催し、人材のネットワーク化をはかるた
めの仕掛けとしてSNSの活用が重要であることや、中堅・中小企業の海外展開支援の

ために関係機関が密接に連携し、企業に対して支援施策に関する情報提供の機会を設けることの必要性を確認した。今後、本連絡会では、企業のニーズを踏まえ、ウェブサイト「I love Kansai Network」（後述）の充実や、公的機関の制度活用による海外展開支援連携セミナーなどの取組みを進めていく。後者の連携セミナーは人材育成・活用に焦点をあて、シリーズセミナーとして年4回程度の開催を予定している。第1回セミナーは2017年3月に開催した。

5. 人材のネットワーク化——親関西人材ネットワーク交流会

関経連では、関西企業と現地政府・経済界関係者等とのネットワーク拡大をはかるため、海外に訪問団等を派遣する際、関経連アセアン経営研修修了生や、現地の関係機関、進出している関西企業等を招いて、「親関西人材ネットワーク交流会」を開催している。

2016年度は、9月にベトナムに使節団を派遣した際、ハノイにおいて本交流会を開催した。交流会には、関経連アセアン経営研修修了生10名、関経連の森会長をはじめとする使節団団員に加えて、ベトナム政府・経済界、日本の関連機関から、計65名が参加した。関経連アセアン経営研修修了生だけでなく、多くの関係機関が参加することにより、関西とアジアのビジネス機会創出・拡大につながる効果的な場となった。今後も各国で交流会を開催していく。

6. 人材のネットワーク化——ウェブサイト「I love Kansai Network」

関経連は、2016年8月に、親関西人材ネットワークのウェブサイト（Facebook）「I love Kansai Network」（[URL:http://www.facebook.com/I.love.Kansai.Network/](http://www.facebook.com/I.love.Kansai.Network/)）を開設した。本サイトは、関経連アセアン経営研修の研修生・修了生や、各国の表敬・懇談先に対して、情報受発信および交流の場を提供するものである。また、経済産業省の親日・知日人材コミュニティ「NIN2（ニンニン）プロジェクト」、HIDA 関西研修センター、JICA 関西国際センター、PREX などの関係機関と連携し、人材育成・交流情報を発信している。関経連は今後も、関経連アセアン経営研修生・修了生へのPRを強化するなど、サイトの認知度向上をはかるとともに、利用者の役に立つ広範な情報発信に取り組んでいく。加えて、国・テーマ別などのグループを作成し、その中でより深い交流・情報交換の促進、現地参加型のイベントの告知・集約などを進め、サイトの活性化をはかっていく。

このように、関経連では、今後とも関係機関と連携し、「親関西人材」の育成・ネットワークの拡大に関する事業を着実に推進していく。また、各国のニーズを把握するとともに、PDCA（Plan, Do, Check, Act）を回すなかで事業の追加、見直しについても随時実施し、「親関西人材」の拡大に向けて、取組みを深化、発展させていく。



図4-2 フェイスブック「I love Kansai Network」画面